



裁判のメカニズムからみる
デジタル・フォレンジック

西村あさひ法律事務所
櫻庭 信之

1

「法リテラシーと法廷対応」と人材育成

IoT、AI、Big Data、M2M、サイバー攻撃対応と経営者責任・・・

デジタル・フォレンジックの基礎性

経済活動に連動する民事訴訟のステージ化

判断を裁判に委ねるトレンド

【受講生は】

思考方法を学ぶ ~ 裾野を広げるために

イメージを作る

法曹は「フィロソフィーの架橋」と「機会の提供」

融合が生み出すシナジー効果

2

2016年度模擬裁判のポイント

DF調査報告書の原本提示

民事訴訟の「原本」

Chain of Custody

クラウド・サービス調査囑託の扱い

DF解析担当者（証人）に意見陳述を求める尋問

反対尋問

ハッシュ・アルゴリズムの脆弱性議論

ハッシュ値がとれない原本同一性

SSDの特性

コピー先メディアのコンタミ

サイバー攻撃・遠隔操作起因の漏洩

弁護士による証拠保全妨害

3

基礎的な思考方法

判決の「主文」を目指す攻防のメカニズム

営業秘密の不正取得を例に

4

平成28年（ワ）第11232号不正競争行為差止等請求事件

判 決

東京都千代田区大手町一丁目1番2号
 原 告 株式会社エックス・コープ
 右代表者代表取締役 ジョン フォレスト
 同訴訟代理人弁護士
 東京都港区赤坂一丁目12番32号
 被 告 ワイウィジッツ株式会社
 右代表者代表取締役 田中 太郎
 同訴訟代理人弁護士

主 文

- 1 原告の請求をいずれも棄却する。
- 2 訴訟費用は，原告の負担とする。

事実及び理由

5

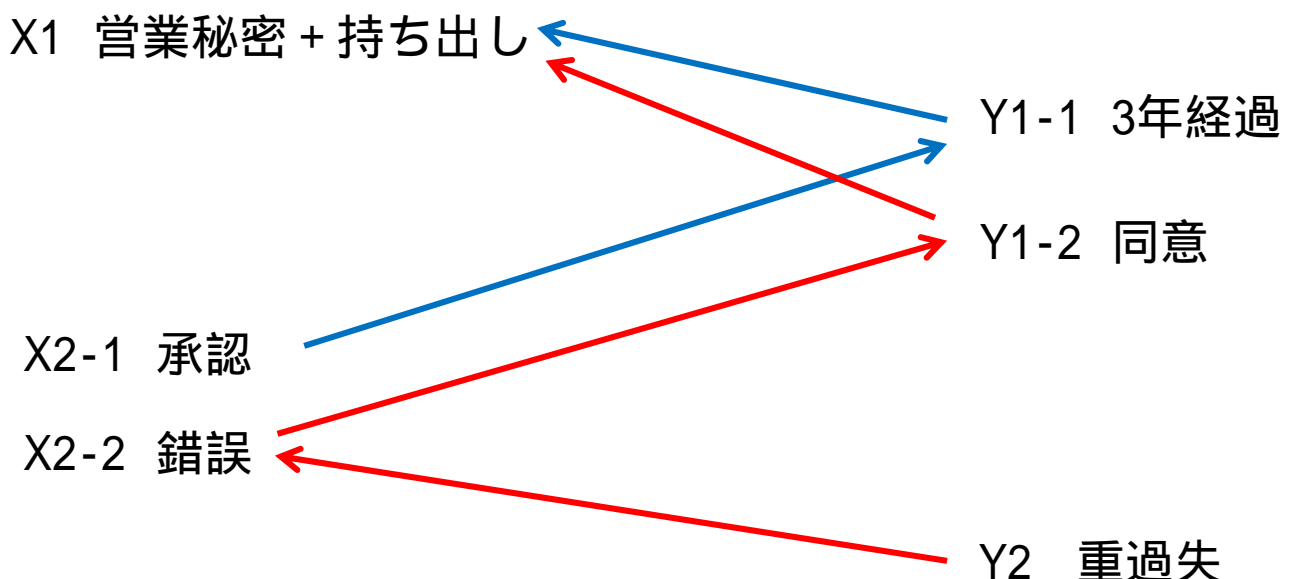
民事訴訟

主文を決めるエレメント (E)

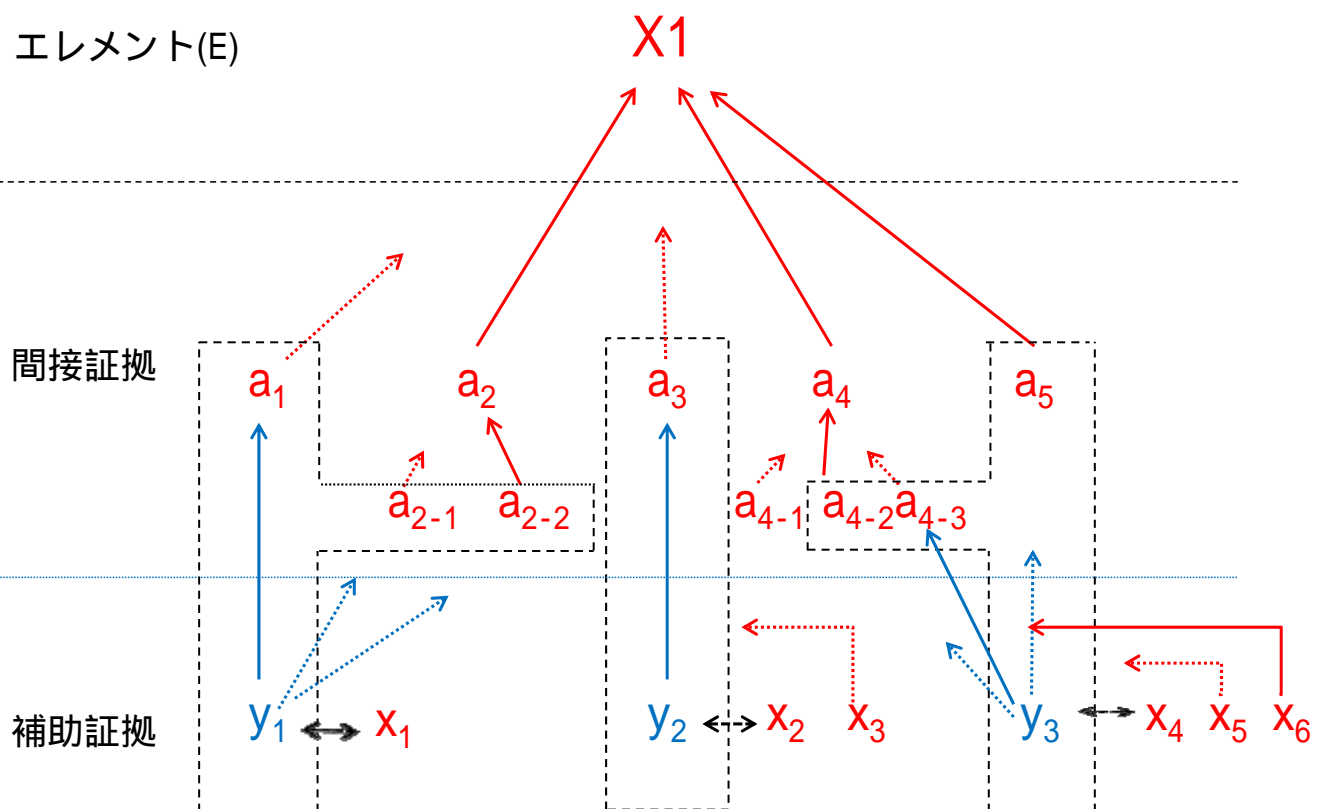
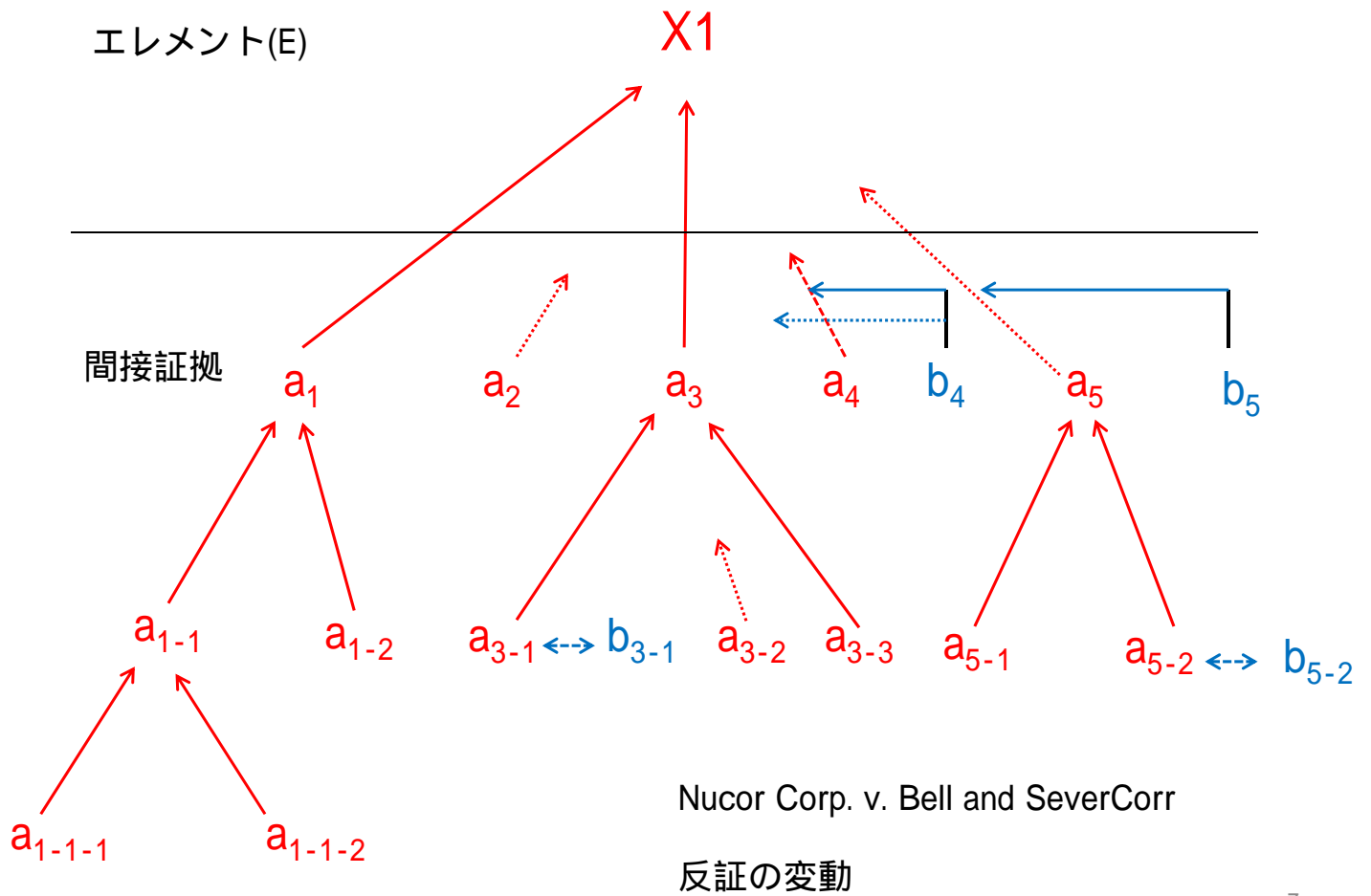
教室事例として

<原告>

<被告>



6



「自由心証主義」下の証拠規則の例

- (1) 紛争顕在化の前後
- (2) 利害関係の有無
- (3) インシデントとの近接性
- (4) 作成の習慣化
- (5) 内容の自己不利益性
- (6) 四囲の事情（内部的な整合性、文脈、外部との整合性）
- (7) 「主観」証拠の重要性

原則 v. 例外

証明の必要の相対性 証拠規則の個別性

9

DFの訴訟上の活用

- (1) 証人尋問
復元・解析等を実施した専門官(証人)による法廷証言
- (2) 書証・検証
DF調査報告書
- (3) 鑑定・調査官
裁判所選任の鑑定人として鑑定
- (4) 起訴前の証拠保全
訴え提起前に裁判官と共に現地でデータの保全
- (5) 補佐人

日本の民事訴訟の将来像

契約理論の重要性

プラクティスと判例形成との関係

手掛かりの他の視点として

Da Silva Moore v. Publicis Groupe (2012)

Dynamo Holdings L.P. v. Commissioner of Internal Revenue (2014)

Rio Tinto PLC v. Vale S.A (2015)